

<平成30年度決算審査特別委員会>

※9月12日から13日まで決算審査特別委員会を開きました。

平成30年度決算状況は、実質収支で見ると、一般会計決算額は、**歳入が140億647万円、歳出が137億8,637万円**で、繰越明許費繰越額409万円を差し引いた実質収支額は、**2億1,601万円の黒字**となった。しかし、財政調整基金から、5億4,905万円の繰り入れを行い、残高は、13億2,003万3千円となり、中期財政計画の規律を下回ったことから、緊張感をもった財政運営が望まれる。

決算審査の主な質疑内容 (抜粋)

Q 市長と市民のフリートーク、昨年実績10人から66人と増えている要因は

A 開催日を曜日指定ではなく、希望に応じて随時開催したことで成果が出た。

Q 平成30年度の学芸員の採用はゼロだったが、どのような観点で採用を考えているか

A 学力と学芸員としての資質と能力などで判断している。今年度も募集し、1人内定を出している。

Q 地域おこし協力隊の実情と課題はあるか

A 30年度、現役2人、途中退任2人。1人は、幌糠で起業する。全国的に職種のミスマッチによる途中退任が課題

Q 特定教育施設運営事業で市内の幼稚園での一時預かり保育事業の人数と課題は

A 待機児童が発生したことから、3～5歳児の受け入れを要請し、30人を受け入れた。幼児教育の無償化に伴い、来年度から市の負担が4分の1発生することから財政に与える影響がある。

Q 合同墓が設置されたが、その運用状況、課題は

A 4月から運用し、38件、約90体が納められた。市内外でこれまで自宅などで保管していた遺骨を納められる方が多い。

Q 地元人材育成事業の成果は

A 高校生が「かずもちゃん焼き」の金型を作り、イベントなどで販売活動を行った。

Q ナマコ資源管理技術開発試験事業の効果について

A 今後資源保護を継続可能に実施するため、増殖事業で放流技術の推進を図る。

Q タルマップダム改修工事の内容について

A ダム法面の一部が崩落したため、北海道が実施した工事の一部を負担。工事期間は令和4年度まで。

Q 海岸漂着物の処理基準が必要ではないか

A 漂流場所により国や北海道、市などの管理者が処理を行うため、基準の作成は難しい。

Q ソーシャルワーカーの活動は

A 学校や日常生活などの困難に対し、子どもや家庭、地域に働きかけ、問題解決にあたっている。人材確保が課題。